

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300076
法人名	株式会社 穂波
事業所名	グループホーム 柿の里
所在地	愛媛県宇和島市柿原甲138番地 1
自己評価作成日	平成23年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>安心して笑顔で過ごせる日常の提供。「特別」じゃなくても小さな喜びや笑顔を積み重ね、幸せだと感じて頂く事。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●もとは柿畑だった敷地に開設したグループホームで、3本の柿の木が残されており、秋には実りが楽しめる。玄関外には椅子が並べられてあり、日向ぼっこスペースとなっており、利用者は一休みされたり、景色を眺めたりしながら過ごされている。玄関には金魚やメダカを飼っておられ、居間入口は寒い間はカーテンで冷気対策をされ、雛飾りや季節のお花を飾っておられた。</p> <p>●開設2年目は、夏祭り・クリスマス会・落語会等、イベントを開催して、「地域の方に事業所を知っていただく」取り組みをすすめられた。散歩時には、近くの畑で農作業する方や道で出会う方と交流できるような職員から先にあいさつしたり、声をかけるよう努めておられ、しだいに利用者もお話に加わられるようである。近所の方が「今はまだ必要ないが、どんなどころか見学したい」と訪ねて来られたことをきっかけに、事業所では、「いつでも見学できるのでどなたでもお越しください」と地域の方々に伝えられた。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム柿の里

(ユニット名) 2ユニット共通

記入者(管理者)

氏名 谷出 佳代子

評価完了日 23年 12月 18日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 介護に対する思い、事業所の方針を職員が共有するよう心掛けている。玄関に理念を掲示し、いつでも目に入るようにしている。	
			(外部評価) 事業所は、「職員が笑顔で利用者や地域の方とかかわり、利用者も職員も自分らしく過ごせるように」という思いを込めて、「いつでも笑顔で いきいきと 自分らしく」と事業所理念を作成し、玄関に掲示されている。事業所は、開所から3年目を迎えられ、今後、年度初めの職員会議時に、事業所を立ち上げた時の思いを職員に話したり、理念の意味を全ての職員で再確認する等して、気持ちを新たにしていきたいと思いますと話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 出向いて行つての参加は少なく、地域の方に来て頂く事が多い。事業所開催の夏祭りには地域の方が沢山来所されたが、日常的な交流と言う点では不十分だと感じている。	
			(外部評価) 開設2年目は、夏祭り・クリスマス会・落語会等、イベントを開催して、「地域の方に事業所を知っていただく」取り組みをすすめられた。散歩時には、近くの畑で農作業する方や道で出会う方と交流できるよう職員から先にあいさつしたり、声をかけるよう努めておられ、しだいに利用者もお話に加わられるようである。近所の方が「今はまだ必要ないが、どんなところか見学したい」と訪ねて来られたことをきっかけに、事業所では、「いつでも見学できるのでどなたでもお越しください」と地域の方達に伝えられた。事業所では、このような機会を捉えて地域とのつながりを作っていきたいと考えておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 夏祭りでは地域に受け入れられていると感じられた。今後も認知症の方を理解して頂く機会を持ちたいと思う。婦人会の方達との料理教室等、参加しやすい形を検討したい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			活気ある会議になっていると感じている。アドバイスを頂き、改善及び検討しサービス向上に役立っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			今年度、自治会・他グループホーム・老人会・幼稚園等に会議参加を依頼され、メンバーが増えたことでいろいろな意見を出していただけるようになったようだ。「緊急時の対応」について事業所の対応事例を報告した際には、看護師や元消防士の方から、「マニュアル通りではいけない場合もある」という意見があり、事業所の緊急時の対応マニュアルを見直すきっかけとなった。さらに、近くの公民館にAED(自動体外式除細動器)が設置されていることも教えていただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			事故報告等、書類関係は早急に提出するよう心掛けている。運営推進会議での相談、指導、助言が主になっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(外部評価)	
			職員は、市役所に出向いて、担当者と顔を合わせて、書類を提出されたり、要介護認定調査・研修や介護保険法の改正について情報を得るようにされている。介護相談員は毎月訪問があり、利用者とお話されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			研修に積極的に参加し職員会議で報告している。いかなる場合も拘束は行わないと言う姿勢で臨んでいるが、将来的に必要な場合もあるので知識の向上に努めたい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(外部評価)	
			以前、落ち着かず、暴力等もみられる利用者がおられ、ご家族にも状態を説明しながら身体拘束せずケアすることに努めておられたが、細かい報告等がご家族の立場からは負担感となったような事例もあったようだ。職員は、今後、利用者の現況について、ご家族の心情も考えながら伝える工夫をしたいと考えておられた。寒い季節は、散歩が少なくなり、下肢筋力が低下して転倒が増える心配もあり、事業所では、廊下を1往復すると職員が鶴を1羽渡す等、取り組みを工夫して下肢筋力の維持向上に取り組まれている。又、ラジオ体操を続けて行っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉による虐待、相手を見無視する虐待、虐待と認識せず無意識に行っているかもしれないという疑問を持つよう意識づけしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用された方がなく知識が薄い部分と感じている。今後学ぶ機会を設けたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項の説明から、十分納得して頂けるよう時間をとっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置しているが意見が入っていた事はない、来所時に近況報告等でご家族とコミュニケーションをとるようにしている。 信頼関係を構築するよう努めていきたい。 (外部評価) 毎月の手紙やホーム便りで、遠くのご家族にも利用者の様子を伝えられるよう取り組まれている。「面会カード」を作成してご家族の来訪時にお渡しして、帰り際には、ご家族が職員に手渡ししてもらおうよう仕組みを作り、職員は必ずご家族と顔を合わせて情報交換ができるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 主に月の一度の職員会議が意見交換の場になっている。出された意見に関し柔軟な対応が出来ていると感じる。	
			(外部評価) 両ユニット職員の関係性もよく、お互いに情報交換しながら取り組まれている。職員が希望する研修を受講できるよう外部研修の予定表を掲示されたり、又、管理者が職員個々に受講をすすめておられる。腰痛を訴える職員が増えたことで、事業所では「介助や動作のコツ」について内部研修を実施する計画を立てておられた。又、接遇研修等も行う予定である。毎月の職員会議時には施設長から「本音で意見を言ってほしい」と職員に働きかけておられ、職員も言い出しやすいようである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 給与水準、労働時間等について不満のあがらない状況と思われる。やりがいと言う精神面については把握しきれていないので、個々と話をする必要がある。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に関してはまず本人の希望を優先している。どの研修に参加するか悩んでいる時にはアドバイスしている。今後の予定としては外部から講師を呼び介護技術の研修を予定している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同時期にオープンした同業者と今年からお互いの運営推進会議に出席している。今後職員の交流を持ちたいと考えている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 言葉の掛け方に注意している、話せる雰囲気になるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 聞き取りに力を入れている。 真摯な態度を心掛け要望を聞き出せるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) それまで利用していたサービスを知り、担当者からの情報を大事にしている。レベルを落とさない事、本人及び家族の希望を組み込めるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 対等な関係を築くよう努めている。 職員も作業に追われると職員主導になりがちになるので、ゆったりとした時間の流れを作るようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 落語会、夏祭り等のイベント時には参加して頂けていると思う、ただ日常的な訪問は少なく検討課題である。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人との関係を継続させる難しさを感じる。血縁関係の方でも入居すると希薄になりがちである。自治会、老人会などのイベントへの参加を考えている。	
			(外部評価) 事業所は、「入居により馴染みの人や場所と疎遠になる傾向がある」と感じておられ、入居してからの利用者同士やご家族との関係、介護相談員や地域の方との関係など、新たな関係作りも支援していけるよう努力されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は変化していくと感じている。より良い関係でいられるよう食事の席も状況により柔軟に替えている。職員が間に入ったり誰一人孤立しないようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 初年度は入院により退所になった方や亡くなられた方が数名いた。概ね良好な関係であったと思う。今後も継続した関係が保てるよう意識していきたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員が情報を共有し、日常の何気ない会話から伝わってくる利用者の希望や思いを読みとるようにしている。 (外部評価) 「帰りたい」と言われる利用者には、ゆっくり話を聴く等、利用者一人ひとりの思いを知るよう心がけておられる。	利用者が「いきいきと自分らしく」暮らすことを支援するためにも、利用者一人ひとりのことを知るような取り組みが期待される。気兼ねする方等、利用者の個性等も踏まえて、いろいろな場面を作り、利用者の思いや意向を出しやすいう、工夫して取り組みをすすめていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族からの聞き取りにより把握に努めている。以前何らかのサービスを受けていた方は、その事業所からの情報提供も役立っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 絵を描いて過ごしたり、散歩をしたり、自分のしたい事をして頂けている方もある。何が出来るか？何をしたいか個々に合った過ごし方を一緒に考えていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			精神的な安息を大事にしている。話し合い検討を繰り返しながら、何がベストかを考えている。身体面でも安易に補助具を使わないように話し合いをしている。	
			(外部評価)	
			ケアマネジャーの交代があり、利用者個々についての情報が不足しているという点もあり、現在はやや抽象的な介護計画となっている。	利用者個々に担当職員も配置されて、今後は、担当職員個々がご家族とコミュニケーションを持ち、関係を作っていくと考えておられる。さらに、利用者の暮らしや介護について、利用者やご家族・関係者と話し合うような機会を作ったり、ご家族もケアのパートナーとして、一緒に支援に取り組むような機会も作ってはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			利用者一人一人に担当職員を決めている。ほんの少し意識する事で何が変わるのではないかと考える。朝の申し送り時に相談し話し合い、それを全員に申し送るようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			画一的なサービスに依存しがちである。柔軟な支援とはどのようなものかを考える事が必要だと感じる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			安全で安心な暮らしは確保出来ていると思う。それと豊かな暮らしを送る事は繋がっていない。検討が必要と考える。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 家族が通院に付き添って下さる方もいる。病院、家族と密に連絡をとり早めの受診を心掛けている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者の方が協力医の往診を受けているが、市立病院・眼科・整形外科等の希望する医療を受けられるよう支援されている。ご家族が通院介助できない場合は、職員が同行されているが、治療方針の説明があるような時には、直接医師と話し合ってもらえるよう連絡をされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 申し送り、カンファレンスで介護職員から看護職員に確実に情報を送るようにしている皆で話し合い相談し指針を決めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 子宮ガンで放射線治療が必要な方がおられた。医療機関と連携をとり、入院を必要最小限にし通院で対応。入院が長引くと退所になり行き先の心配をされていたが、協力し成し得た。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 健康な時に本人の希望を聞いておかなければならない。死期が近づいている時、本人以外の意見が方針を決めてしまう。亡くなる1ヶ月位前まで、2名の方を介護したが看取りはまだ出来ていない。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成して、入居時にご家族に説明されているが、マニュアル通りに行ったことで課題が残った事例もあり、内容を見直し、今後、職員で意識統一を図っていきたいと考えておられる。3月には医療連携体制も整備され、24時間連絡可能な医師と連携して利用者を支えていくような体制を作られた。利用者の中には「延命はいりません」と直筆で書いておられる方もあり、事業所では利用者やご家族の希望に応じた支援に取り組みたいと考えておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設から1年が過ぎ、実際に急変、事故も発生している。マニュアルも作成しているが、実際には不都合がある事がわかり修正、変更した。 訓練は職員会議を利用したいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定火災訓練を実施した。計画書を作成し消防署の方にも来て頂いた。アドバイスもあり改善点がわかり充実した訓練ができた。推進委員から自治会、老人会の協力の申し出を受けている。 (外部評価) 避難訓練を実施することで、職員の動き等、課題を明らかにして次の訓練につなげるようにされている。1階は、どこからでも避難できるが、「2階からの避難は、外階段を安全に降りるにはどうすればよいか」ということが現在の課題となっている。備蓄については、他事業所からの情報も参考にして、準備しているところである。	火災や地震等、様々な場面を想定して、職員があわてず対応ができるよう、訓練を重ねていかれることが望まれる。さらに、地域のネットワーク作りにも取り組みながら、いざという時に地域と協力し合えるような体制を、より具体的に作ってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いが丁寧でも態度や仕草で利用者を傷つけているかもしれない。 自分達の行動が間違っていないか常に疑問を持つようにしている。 (外部評価) 利用者が居る場所の近くで職員は申し送りを行うこともあるが、個人名は出さずに行えるよう配慮されている。ケアの場面では、利用者への声のかけ方やトーンに気を付けておられるが、職員が急いでいるような時には、職員の立場のみでやり取りしてしまうようなこともあるようだ。ご家族の来訪時には、「居間と居室、どちらでお話するか」を利用者やご家族に聞くようにされている。食べこぼしがある利用者には、布のエプロンを準備されており、違和感のないように配慮されている。居室でポータブルトイレを使用される方には入り口につい立を立てて、中の様子が見えないように配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表現できない方が多いと思う。時間がかかっても自己決定できるように「待つ姿勢」を意識づけたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 型にはまった1日の流れになっている。外出するにも職員主導になっている。利用者さんから希望を聞き出せる関係を築き柔軟に対応できる体制を作る必要がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 清潔であるよう心掛けている。職員に美容師が2名いるのでこまめにカットは出来ている。外出時ひはおしゃれをして出掛けるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 昼食、夕食はメニューが決まっているのですぐに対応出来ないが、朝食に好物を出したりしている。レクリエーションと一緒に調理したりして喜んで頂いている。なかなか日常的にできないのが課題。	
			(外部評価) 行事時には、利用者には馴染みの、ぼた餅作り・ごぼう削ぎ・干し大根作り・しその実しごき等を利用者も行えるよう支援されている。「もうすんだ？」と他の利用者のお膳を下げてくださる利用者の方の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) こまめに出すようにしている。夜間に於いてもペットボトルにお茶を入れ配っている。自ら飲まない方には起きている時にお持ちするようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後必ず職員と口腔ケアを行っている。手の不自由な方も自分の義歯を懸命に磨いている。日常動作がリハビリに繋がりが出来る事への支援となっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 夜間、居室で放尿したり失敗される方も多いが安易に紙パンツにしないようにしている。排泄の間隔をみたりして、声掛け、見守りにより支援している。	
			(外部評価) 利用者がどこまでご自分で排泄行為が行えるかということを見極めることができるよう、職員は少し離れた場所で見守り、把握に努めて介助されている。トイレが設置されている居室が、ユニットに2部屋であり、必要に応じて決めるようにされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘により不穏状態になったり、精神面に影響を与える場合がある。日中の運動量を増やしたい。水分摂取にも気を付けているが運動量がとにかく足りないと感じている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) シャワー浴の方には同時に足湯をして喜んで頂いている。失禁された方を夜勤帯で入浴介助したり臨機応変に対応している。入浴の希望は朝聞き希望に添えるようにしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者に入浴回数や午前・午後等の希望をお聞きして、入浴の予定を立てるようにされている。「入らない」と言われる方には、無理強いせず延期されているが、少なくとも週2回は入浴できるよう対応されている。入浴を強く拒むような利用者もあったが、職員も一緒に服を脱ぐ等、職員のアイデア等を採り入れながら試みを重ねられ、ご本人も徐々に入浴に気が向くようになったケースもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 年齢も上がり、疲れやすかったり体調不良を訴えられる事も多くなった。日中では部屋の中を暗くし静かに休めるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の状態を記録ノートにはさみ、職員が目を通すようにしている。服薬チェック表も使い誰が服薬介助をしたかわかるようにしている。薬疹の方がでたり、戸惑う事もあったが医療機関と連携をとり努力している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 朝の掃除の時には自ら進んで手伝って下さったり、食事の下膳をして下さる方もいる。どんな小さな事も強制にならないよう、自分らしさを大事にして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 人により2週間に1回買い物にでかけたりしているが、声をかけても「行きたくない」とことわられる方が多い、外出レクでは、ファミレスに行き外食したりしている。外出すれば楽しんで頂けるようだが、次の外出への意欲につながらない。	
			(外部評価) 毎月1回は外出できるよう計画されており、南楽園・歴史博物館・花見・外食等、ユニットごと同じ場所に2組に分けて出かけておられる。冬場は、外に出る機会が少なくなるため、365歩のマーチをかけて廊下を歩いたり、建物周囲を上履のまま出られるようになっており、ちょっと外に出て気分転換できるよう支援されている。春になると、川沿いの散歩道や畑を見に出かけられるようで、利用者は楽しみにされている。畑の野菜の収穫を楽しまれたりもする。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほぼ一元的に施設が管理している。買い物に行く時にも職員が払ったり支援が出来ていないと感じる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話で家族が遠慮なく話せている方もいる。その他にもご家族に用事で電話をかける時には電話を代わって話して頂いたりしている。絵手紙を送り喜ばれた事もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 設備的に音が響き苦情が出ることもある。どうしようもない部分もあるが、気持ちをそらすようにしている。 季節の旬の物を取り入れたり食事の工夫をしている。 リビングには常に花が飾られ季節感を演出している。	
			(外部評価) もとは柿畑だった敷地に開設したグループホームで、3本の柿の木が残されおり、秋には実りが楽しめる。玄関外には椅子が並べられてあり、日向ぼっこスペースとなっており、利用者は一休みされたり、景色を眺めたりしながら過ごされている。玄関には金魚やメダカを飼っておられ、居間入口は寒い間はカーテンで冷氣対策をされ、雛飾りや季節のお花を飾っておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲の良い利用者がお互いの部屋を行ったり来たりされている、時には口論になったりするが社会性を大事にして見守っていきたいと思う。リビングにおいては、テーブルを多くする事により少人数になれるようにしている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昨年と比べ殺風景な部屋は少なくなっている。仏壇、ダンス、冷蔵庫を置いたり、自分らしさが出てきているように思う。今後も本人、ご家族と相談しながら工夫をしていかなければいけないと感じる。	
			(外部評価) 居室には、洗面台・クローゼット・ベッド・キャビネットが備え付けられている。仏壇やダンス・テレビ・冷蔵庫等それぞれに持ち込まれており、亡きご主人の写真やご家族の写真が、利用者のよく目につくところに飾られてあった。ご家族手作りの人形をドアに付けている方もあり、ご本人は目印にされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自分の部屋が認識出来ない方も、入口に人形をかけたたりする事により、覚えたりされている。どこでも自由に出入りできるようになっているので洗剤等、危険な物は見えない場所に置いている。	
			(外部評価)	